

新基地建設反対名護共同センターニュース

日本政府「沖縄は“見ざる、聞かざる” アメリカには“言わざる”」の対米従属



ゲート前では14日、午前8時半から座り込みを開始。「オール沖縄」の稲嶺共同代表が挨拶しました。
稲嶺氏は「日本政府は、沖縄に対しては「見ざる、聞かざる」だが、アメリカに対しては、地位協定の改定要求など「言わざる」の卑屈な従属関係を続けている。デニー知事がアメリカに行つて沖縄の民意を訴えているが、こうした活動はボデイブローのように効いて世論を動かし必ず実る。沖縄の問題は、オスプレイが全国を自由に飛び回るようになるなど日本全体の問題だ。連帯を全国、全世界に広げ、粘り強く闘つていこう」と訴えました。

デニー知事の米国での活動は必ず実る
稲嶺進「オール沖縄」代共同
ゲート前で訴え

工事再開後初 工事用作業車がゲートから搬入

キャンプ・シュワブゲートでは15日、工事中断後初めて砕石を積んだトラックやミキサー車など数十台が搬入しました。この日、大雨の中うるま市や浦添、南風原などの島ぐるみから100人余の県民が座り込み、「違法工事やめよ!」と抗議の声を上げました。

菰野「9条の会」辺野古連帯ツアー
三重県の「菰野町9条の会」の有志11人が12日、辺野古新基地建設反対運動への連帯で浜のテント（写真）とキャンプシュワブのテントを激励訪問しました。浜のテント前で名護共同センターのスタッフから、知事選など勝利の教訓や、建設反対運動の歴史や展望のレクチャーを受けました。参加者は「沖縄のたたかいかから学んで、地域でも頑張りたい」と話し、各自DVD「美ら海辺野古」を購入して帰りました。



憲法が保障する地方自治を守ろう!

ストップ! 辺野古新基地建設 国の違法行為を許さない学習会
ヘリ基地反対協と島ぐるみ名護は14日、名護市内で「ストップ! 辺野古新基地建設! 国の違法工事を許さない学習会」を開催、市民ら82人が参加しました。島ぐるみ名護の稲嶺進代表が挨拶、専修大学の白藤博行教授が講演しました。
白藤教授は、国が県の「撤回」に対し私人に成りすまし執行停止を申し立て身内の国交大臣がこれを認め、法を捻じ曲げ「法治」国家ではなく「政治」国家だと国を痛烈に批判し、沖縄県民は憲法が保障する地方自治を守るため勇気と自信を持って闘う権利があると強調しました。



名護市宇茂佐公民館で講演する白藤教授

シンポジウム
「辺野古」県民投票の
これまでとこれから
～県議会における議論と展望～

●日時 11月25日(日)
14:00~17:00(開場 13:00)
●会場 教育福祉会館(那覇市古島)
(参加費無料)
●主催 「辺野古」県民投票の会